

200万画素で選ぶ

Photo : Nakamura Tohru
モデル : 高山江里子

デジタルカメラ 購入ガイド

デジタルカメラブームに火を付けたカシオQV-10が発売されたのは、1995年3月。このわずか4年間で、デジタルカメラの画素数は飛躍的にアップし、今年はずいに200万画素を超えるデジタルカメラが各社から発売され、夏のボーナス商戦が始まる前に熱い戦いが繰り広げられている。そこで、今回のProduct Showcaseは200万画素モデル8機種をピックアップし、注目すべき機能やウィークポイントをざり紹介しよう。

文/ サンプル画像撮影 伊達淳一

Product Showcase

200万画素も 「欲しい時が買い時」

このProduct Showcaseで130万画素のズーム機を特集したのは、わずか数か月前のことだ。しかし、各社の主力モデルは200万画素に移行しつつあり、この勢いでは来年には300万画素突破もありえない話ではなくなってきた。

それでは、来年登場が予想される300万画素機を待ったほうが得策なのだろうか？ 今すぐ高画質デジカメを買う必要がないのなら、冬のボーナスまで、あるいは来年の春まで様子見を決め込むのもいいだろう。しかし、デジカメに限った話ではないが、あとから発売される製品のほうが高性能で低価格なのは世の常だ。したがって、欲しい時が買い時だ。

それに200万画素もあれば、1200dpiクラスのフィルムスキャナーでカラーネガをスキャンしたくらいの画質があるため、キャビネサイズくらいまでは写真と見分けがつかないほどの

クオリティーでプリントできる。もちろん、300万画素になればより大きくプリントできるわけだが、その代わり、画像データのファイルサイズも大きくなるので、より大容量のメモリーカードやMOなどの記録メディアが必須となってくる。

ちなみに、サービスサイズのプリントまでなら、130万画素モデルでも十分なクオリティーを持っている。いたずらに画素数だけに目を奪われず、自分にとって必要な画質が得られ、なおかつ使いやすいデジカメはどれかを冷静に判断することが大切だ。

本誌CD-ROMには、今回の特集で取り上げた200万画素デジカメ8機種と、それ以外の主要なデジカメで撮影した生データを収録してあるので、ぜひ手持ちのカラープリンターなどでプリントして、自分の目で画質をチェックしてみよう。



200万画素時代のチェックポイントはこれだ!

クルマを購入する際、エンジンの排気量や馬力は確かに気になるが、それだけで選ぶ人はいないはずだ。デジカメ選びもまったく同じ。CCDの画素数だけに目を奪われず、総合的な性能のバランスが取れていて、自分の好みや使用目的にピッタリ合った究極の1台を探そう。

1. CCDの画素数

~わずかな違いは無視でき~

200万画素デジカメと一口に言っても、CCDの画素数は211万画素、214万画素、230万画素と微妙な違いがある。しかし、わずかな画素数の違いは無視しても構わない。

それよりもレンズ性能やオート精度、信号処理の優劣のほうが、はるかに画質に与える影響が大きいからだ。

ところで、CCDのサイズが同じなら、画素数が多いCCDほど画素サイズは小さくなる。つまり、それだけ光を受け止める面積が小さくなるため、CCDの感度も低くなる傾向がある。しかし、今年の200万画素モデルは、いずれも粒ぞろい、昨年の130万画素モデルと同レベルの感度を維持している。それどころか、設定でゲインアップ(電気的な増感)を行える機種も増え、室内でもストロボなしで撮影できるよ

うになった。色も鮮やかで階調再現も良くなっている。

そういう意味では、今年の200万画素モデルは、昨年の130万画素モデルと比べ、価格が上がったことを除けば、非常に完成度が高い。実売価格の下がってきた130万画素モデルを買って200万画素モデルのさらなる熟成を見守るか、少々予算オーバーでも頑張っ

値下がりする130万画素モデルとの違い

200万画素モデルと130万画素モデルとでは、どのくらい画質が違うのだろうか?

そこで昨年の大ベストセラーとなった富士写真フイルムのFinePix700(1/2インチ150万画素CCD搭載)と、その後継機にあたるFinePix2700(1/2インチ230万画素CCD搭載)を使って、同条件で同じ被写体を撮り比べてみた。

まず、画像解像度(サイズ)はFinePix700が1280×1024ピクセルで、FinePix2700は1800×1200ピクセル。面積比で約1.65倍の差がある。つまり、同じ密度(出力解像度)でプリントすれば、FinePix2700のほうが面積比で1.65倍大きなプリントが得られるわけだ。たとえば、解像度を240dpiに設定して出力した場合、余白なしのプリントサイズはFinePix2700が19×12.7cm、FinePix700は13.6×10.8cmとなる。ちなみに240dpiというのは、インクジェットプリンターの能力をもっとも効率良く引き出せる解像度だ。

一方、同サイズにプリントすると、画素数が多いデジカメのほうが密度の高いプリントになる。FinePix2700とFinePix700とでは縦横の比率が違うので、高さが8.5cmになる解像度を計算してみると、FinePix2700は358dpi、FinePix700は306dpiとなる。高い解像度でプリントしたほうが情報が密になり、キレイな描写に見えるのだ。

ただし、プリンターの再現能力を超えた解像度で出力しようとしても、それは無意味だ。1インチに306個しかドットを打てないプリンターに358個のドットを打たせることはできないからだ。そのため、プリンターが再現できる解像度まで縮小処理を行ってからプリントすることになるのだが、縮小処理がまずいとくえってギザギザが

目立ってしまうことさえある。A6サイズ専用の昇華型プリンターや銀塩プリントサービスなどは、プリンターの解像度が300dpi前後までなので、200万画素クラスのデジカメで撮影したデータは、サービスサイズに引き伸ばすにはもはやオー

バースペックだ。出力するデバイスによっては、むしろ130万画素クラスのデジカメで撮影したもののほうが高画質になることさえある。

したがって、大きくプリントしてこそ200万画素の意味があると言えるだろう。



FinePix2700

(1/2インチ230万画素)
1800×1200ピクセルというポストカードサイズ専用の昇華型プリンターでは手に余る画素数を誇る。



KENWOODの左・右側面の両方の斜線が完全に分離・解像している。画素数の違いはこういった細部描写力に現れる。



FinePix700

(1/2インチ150万画素)
レスポンスの速さが気になるが、5万円を切る実売価格は魅力。サービスプリントには必要十分な画素数を持つ。



150万画素のFinePix700で撮影したカットは、KENWOODの左側面の斜線は解像しているが、右側面はつぶれている。





2. 単焦点 / ズーム

~大きさを気にしなければズームはメリット大~

コンパクトカメラやビデオカメラはズーム付きが当たり前。運動会や動物園など、どうしても被写体の近くに寄れないシーンでも、ズームがあればアップで撮影できるのは魅力だ。また、マクロ撮影でもズームのほうが便利だ。単焦点のデジカメは撮影距離が短すぎてカメラの影が被写体にかかりやすいし、遠近感が強すぎて物の形が歪んで写りやすい。その点、

テレ側にズームして撮影すれば、適度な撮影距離が保てるので、カメラの影が被写体にかかる心配は少ないし、背景もすっきり整理することができる。遠近感も弱まるので、被写体も自然な形で写せるというメリットがある。

ただ、ズームはどうしても光学系が複雑になってしまうので、単焦点レンズに比べると全長が長くなってしまふ。そのため、デジカメの厚みもそれなりに増してしまうのが欠点だ。昨年の130万画素ズームに比べれば、かなりコンパクトに

なっただけのもの、単焦点モデルのコンパクトさは魅力だ。ちなみに、ホームページに掲載する低解像度のイメージでよいのなら、デジタルズームや画像の一部をトリミングすることで、ズームと同様の効果を得ることができる。200万画素モデルなら画像の一部をトリミングしても、35万~85万画素程度のクオリティーがある。今後、画素数が増えてくると、単焦点レンズ+デジタルズームという使い方も増えてくるだろう。



3. レスポンス

~130万画素に比べて全般的に向上~

デジタルカメラの使い勝手を大きく左右するのがカメラのレスポンスだ。電源スイッチを入れてから実際に撮影できるまでの時間、シャッターを切ってからメモリに記録し終わり、次の撮影ができるまでの時間、AFの合焦スピード、再生時のコマ送りのスピードなど、できることなら実際に店頭で製品を手にしてチェックしたいところだ。

一般には画素数が多くなると、それだけ負荷

が重くなり、レスポンスも低下するのが当たり前だが、今年の200万画素モデルは圧縮専用チップやバッファメモリーを搭載することで、昨年の130万画素モデルより全般のレスポンスが向上している製品が多い。

バッファメモリーを利用して記録時間の短縮を図っている機種としては、ニコンCOOLPIX 950、オリンパスC-2000ZOOM、エプソンCP-800などがあるが、サクサクと撮影できるのは最高画質で4~5枚、高画質で10枚程度で、それ以上はバッファに溜まったデータがま

とめて書き込まれるため、書き込みが終わるまでじっと待つ必要がある。

機種名	起動してから1ショット目 速写間隔(JPEG最高画質)	
Allegretto M4	約3.5秒	約4秒弱
COOLPIX950	約4秒	約3秒
COOLPIX700	約4.5秒	約4秒弱
C-2000ZOOM	約5.5秒	約3秒
DSC-F55K	約6.5秒	約5秒
CP-800	約9秒	約5秒
RDC-5000	約9.5秒	約11秒
FinePix 2700	約8.5秒(2回目以降は5秒弱)	約10.5秒

4. 携帯性

~小型化するも採用電池とのバランスを考慮~

全部撮り切ってからでないで現像に出すのがもったいないフィルムカメラと違って、デジタルカメラは撮ったその場で画像が確認でき、いらない画像はすぐに削除できる。また、たった1枚撮影しただけですぐにパソコンに取り込める。こうしたメリットを活かすには、普段からデジカメを持ち歩き、どんどんシャッターを切って、気に入らないカットはバシバシ消してしまうのがベストだ。

しかし、携帯性の悪いデジカメだと、ついつい持って出るのがおっくうになる。けれど、どんなに高画質なデジカメも、使わなければ宝の持ち腐れだ。携帯性という点では、背広の内ポケットに入るスリムでコンパクトな機種が理想的だが、せめてアタッチケースやボジレットに常時携帯しても苦にならないものを選びたい。

ただ、注意したいのはデジカメのなかにはコンパクトにするために専用充電電池を採用している機種や、電池本数を減らした機種、光学ファインダーを省略した機種もあるので、こうした

要素も加味したうえで携帯性とのバランスを考えて選ぶことが大切だ。

機種名	寸法 W x H x D (mm)	重量(電池込み)
FinePix 2700	80 x 97.6 x 33	約265g
Allegretto M4	112 x 68 x 42	約270g
CP-800	113 x 67.5 x 35.5	約285g
DSC-F55K	103 x 79.1 x 48	約300g
COOLPIX700	114 x 67 x 38.5	約370g
C-2000ZOOM	107.5 x 73.8 x 66.4	約405g
RDC-5000	131.1 x 68.8 x 39.3	約415g
COOLPIX950	143 x 76.5 x 36.5	約450g

*単3アルカリ乾電池1本約25gで算出

5. 操作性

~機種によってメニューの構成が異なるので注意~

クルマの場合、メーカーや車種が違っても基本的な操作性は同じだ。しかし、デジタルカメラは、同じメーカーの製品でも機種が違くと、操作性もまったく異なることが多い。特に違うのがメニューの構成だ。デジタルカメラには、撮影中に反射的に呼び出して設定しなければいけない機能と、一度設定してしまえば滅多な

ことでは再設定を行わない機能があるのだが、ほとんど写真を撮らない開発者が設計すると、これらが無秩序にメニューに羅列されてしまふ。その結果、撮影中に瞬時にやりたい露出補正が「メニューを呼び出し、機能を選択し、露出補正值を選んで、OKボタンを押し、再びメニューボタンを押して撮影モードに戻る」というように、非常に多くのステップを踏まなければ露出補正すらできないという不便なカメラに

なってしまうのだ。反対に画質モードのようにあまり頻繁にモードを変更しない項目が、うっかりボタンに触れただけで変わってしまったりすることもある。

もちろん、人によって好みや相性もあるので、実際に販売店やメーカーのショールームで実機に触れて操作してみるのがベストだ。





6. 記録メディア

～価格差も縮小して広がる選択肢～

デジタルカメラの記録メディアとしては、スマートメディアとCF(コンパクトフラッシュ)カードが主流だ。最大容量ではCFカードが有利で、すでに96MバイトのCFカードが店頭に並んでいるが、スマートメディアは、今のところ32Mバイトカードがもっとも大容量だ。

スマートメディアはCFカードよりもシンプルな構造なので単価が安く、割安というのがセールスポイントだったが、CFカードが急速に値下がりしてきている。東京の量販店では、32Mバイトのスマートメディアが12,000円なのに対し、48MバイトのCFカードは19,800円と、そ

の差はごくわずかになっている。PCカードアダプター(Type AのPCカードとして使用するためのアダプター)の価格はスマートメディア用のほうが高いので、アダプターまで含めて考えると、もはやCFカードのほうが割安だとも言える。

ところで、同じCFカードでも製造メーカーが異なると、カードを認識しなかったりエラーが発生したりすることがある。特に200万画素モデルは記録時間の高速化のために、使えるCFカードの制限が厳しくなっている。一番安心なのは、各社が純正オプションとしているSandisk社製のCFカードだ。

一方のスマートメディアにも互換性の問題は存在する。最新の200万画素モデルなら32M

バイトカードに対応しているが、昨年春に発売された130万画素モデルのなかには16Mバイトまでしか対応していない機種もあるので注意しよう。

なお、ソニーのCyber-shot DSC-F55Kは、メモリスティックと呼ばれる新規格のメモリーカードが採用されている。スマートメディア同様に単価が安く、オーディオ機器、情報端末などへの展開も計画されている。最大容量は16Mバイトで、実売価格は約7,000円だ。

左からメモリスティック、スマートメディア、CFカード(メルコRFC-C)



7. バッテリー寿命

～普段は充電式電池がおすすめ～

デジタルカメラのアキレス腱がバッテリーだ。カメラによっては、専用の充電電池を採用している機種もあるが、不意の電池切れの際には対処のしようがない。汎用の単3形アルカリ電池を使用するタイプのほうが安心感はある。

ただし、アルカリ電池は非常に持ちが悪く、銘柄によって特性にバラツキが多い。そのため、アルカリ電池は不意の電池切れ専用と割り切り、普段は充電式のニッケル水素電池を使うようにしよう。そのほうがランニングコストは安いし、アルカリ電池よりも長時間使用できるからだ。



単3形電池を4本使用するリコーのRDC-5000(左)と充電式インフォリチウムバッテリーを採用したソニーのCyber-Shot DSC-F55K(右)

8. 液晶モニター

～屋外での利用が中心なら明るい液晶モニターを選択～

今やデジタルカメラ必須の機能となった液晶モニター。光学ファインダーと違って、マクロ時でも構図のずれがほとんどないし、撮影したカットをすぐにその場で再生してチェックできるなど、液晶モニターのメリットは計り知れないも

のがある。

ただし、機種によって、液晶モニターの明るさはかなり差がある。販売店の店頭のように室内ではあまり気づかないかもしれないが、晴天の屋外では手をかざしてひさしを作らないと何も見えなくなってしまう機種が多い。液晶モニター主体で撮影するのが多い人は、できるだけ

液晶モニターのバックライトが明るい機種を選ぼう。

また、200万画素ともなると、わずかなピンぼけやブレもシビアにわかってしまう。そのため、3~4倍程度にクローズアップして再生できる機種が便利だ。



9. データ転送

～USBインターフェイスも登場～

200万画素クラスのデジカメで最高画質で撮影すると、1カットあたりのファイルサイズは約800~1000Kバイトにもなる。メモリーカードの容量も8Mバイト程度では明らかに不足で、16Mバイト、32Mバイトクラスのメモリーカードを追加購入する人も多い。

このようにメモリーカードの容量が8Mバイトを超えるようになると、データ転送速度の遅いシリアル転送は非現実的だ。たかがデジタルカメラで撮影したデータをパソコンに転送するのに、数十分もかけるなんて馬鹿げている。

スマートメディアなら、フラッシュバスと呼ばれる3.5インチフロッピーディスクアダプター経由で転送できるが、フラッシュバスも決して速いとは言えない。

最近では、USBインターフェイスを搭載したデジカメも増えてきており、USBを利用すればRS-232Cによるシリアル転送よりは高速に転送できる。できることなら、ノートパソコンと同じようにPCカードスロットを利用するのがもっとも賢い方法だ。SCSI機器が利用できるのならSCSIタイプのPCカードアダプターがベストチョイス。これなら48Mバイトカードでもわずか1分程度でデータ転送が終わるからだ。ま

た、スマートメディアユーザーなら富士写真フイルムやハギワラシスコムから発売されているUSBスマートメディアリーダーがおすすめだ。高価なPCカードアダプターは不要だし、16Mバイトカードのデータをわずか20秒で転送できるほど高速な転送速度を誇るからだ。



富士写真フイルムのイメージメモリーカードリーダー(左)と専用USBケーブル(オプション)を接続できるリコーRDC-5000のシリアル端子(右)



200万画素デジタルカメララインアップ

200万画素クラスの最新8機種をピックアップし、この機種ならではの魅力やちょっと注意したほうがいいポイントを紹介する。画質については、印刷との相性や主観により評価が変わるため、付属CD-ROMに収録されたサンプル画像を直接自分の目で確かめ、プリントしてみることをおすすめする。

自由なアングルで撮影できる回転レンズと2cmのスーパーマクロが魅力

COOLPIX950



プロ用一眼レフのニコンF5をイメージする硬派な質感がカメラマニア泣かせ。レンズにこだわり、沈胴式レンズではなく、一定のレンズ長が確保できるレンズ部回転機構を採用しているのも特徴だ。

黒しぼ塗装のマグネシウムボディは、いかにも硬派な雰囲気。レンズ部が300度回転するので、ローアングルやハイアングルでも液晶モニターを見ながら撮影できる。ワイコンやテレコン、フィッシュアイコンバーターもオプションで用意されていて、レンズの画角変化も思う存分楽しめる。また、レンズ前2cmまでのマクロ撮影もでき、1円硬貨が画面からはみ出すくらい、どアップで写せるのも魅力のひとつだ。

3段階の絞り優先AEや8~1/750秒までのシャッター優先AEも搭載していて、絞りやシャッター速度を駆使した撮影も可能。感度が不足するシーンでは、ISO 80/100/160/320と4段階のゲインアップもできる。

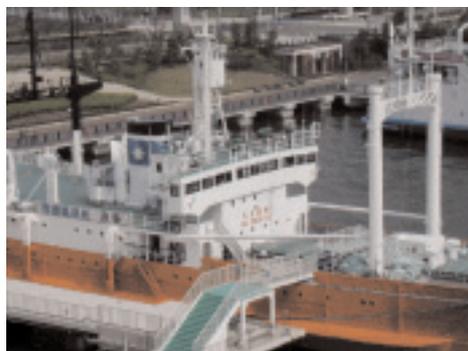
check!

- レンズ前2cmまで近寄れるので、1円硬貨が画面からはみ出すくらいのマクロ撮影が可能
- 純正オプションとして、24mmワイコン、2倍テレコン、183度のフィッシュアイコンバーターを用意
- 絞り優先AE(3段階)やシャッター優先AE(8~1/750秒)を搭載
- 専用の外部ストロボが使用可能
- ✕ 液晶モニター表示が暗く、晴天の屋外では視認性がよくない
- ✕ ゲインアップ時にはシャッター優先AEが使用不可

レンズユニットを垂直にするとフラットになるので、見かけほど収納性は悪くない。ただ、回転機構が無理な力が加わると壊れてしまうことがあるので注意しよう。



液晶モニターの視野率は97%と高級一眼レフ並。再生時には3倍までクローズアップできるので、ブレやピンぼけのチェックに便利だ。



高性能レンズにより細部まで克明に描写されるので、いたずらに輪郭強調でシャープに見せる必要がなく、細いワイヤーまでしっかり描写されている。ズームングもなめらかだ。



背景との光量バランスも絶妙。スローシンクロ(写真右)を使えば、ほぼ完璧なストロボ撮影が行える。ただ、ストロボの光はちょっと青っぽさが目立つ。

211万画素
(補色系フィルター)

38-115mm
F2.6-4

CFカード
(8MB)

メーカー名 : (株)ニコン

価格 : 125,000円

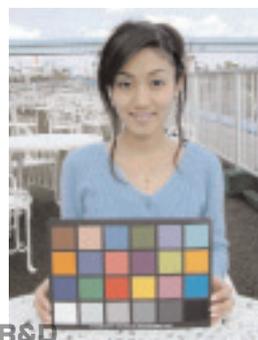
URL : http://www.nikon.co.jp/ei_j/



グリップ部にはすべり止めのラバーが貼られているので、ホールディング感は抜群。液晶モニターを上に向け腰のあたりに構えれば、手ブレしにくく、相手にカメラを意識されにくい。



200万画素モデルでは最強のマクロ能力を誇る。最大撮影倍率が得られるのはテレ端ではなくズーム中域で、レンズ前2cmまで被写体に近寄れる。



補色タイプのCCDとしてはくすみの少ない鮮やかな色再現だ。肌色も健康的に再現されている。あごの下など暗い部分にノイズが目立つのが惜しい。



画素数

レンズ
(35mmフィルム換算)

記録メディア(付属)

F2.0と明るい3倍ズームと屋外でも見やすい液晶モニター

C-2000ZOOM

211万画素
(補色系フィルター)35-105mm
F2-2.8スマートメディア
(8MB)

メーカー名 : オリンパス光学工業(株)

価格 : 113,000円

URL : <http://www.olympus.co.jp/>

LineUp/Digicamera/C2z/



電源を入れて撮影モードにすると、沈胴式レンズがせり出してくる。シャッターボタン周りはまさに銀塩カメラと同じだが、電源ボタンとシャッターを間違えてしまうことも...

液晶モニターが非常に明るく、屋外でも見やすいのが魅力。ただ、その分電池の持ちは悪いので、ニッケル水素充電電池を使うのが原則だ。十字キーが斜めに入りやすいのが残念。



奥行きはそれなりにあるのでポケットには入らないが、外觀写真からイメージするよりも遙かにコンパクトなボディ。左手でどこを持ってはいいのかわかってしまうくらいだ。

オーソドックスなカメラ型デザインなので、誰にでも違和感なく扱えるのが魅力。一眼レフ並の多機能を備えてはいるが、それを感じさせないカンタン操作で扱えるのも特徴だ。リモコンも付属している。

ちょっとボディの厚みはあるものの、手のひらサイズのコンパクトボディに、35 ~ 105mm / F2.0 ~ 2.8という非常に明るいズームレンズを搭載。一眼レフの高感レンズでこれほど明るいズームは存在しない。

また、本格的な5枚羽根絞りを内蔵しており、絞り優先AEやシャッター優先AEも可能。背面の十字キーを利用して、絞りやシャッタースピード、露出補正を1/3 EVステップで設定できる。

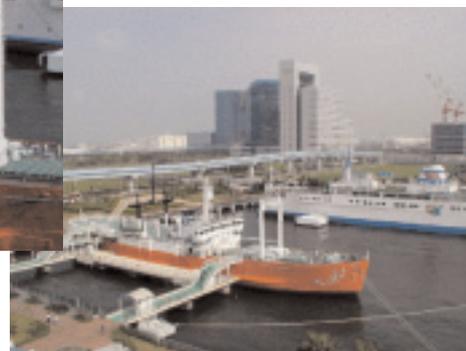
プログラムAE時には、感度がISO 100からISO 400相当まで自動的にゲインアップするので、室内でのノーストロガ撮影も十分可能だ。オプションのコンバージョンレンズアダプターを装着すれば、ワイコンとテレコン、クローズアップレンズも利用できる。



ニコンのCOOLPIX950同様、細部までピシッと描写されており、輪郭強調に頼らなくてもシャープな描写を見せている。COOLPIX950よりもコントラストが高めの味付けだ。



カタログスペックの最短撮影距離は20cmだが、ズーム中域ではさらに被写体に近寄ることができ、最大撮影倍率が得られる。オプションでクローズアップレンズも装着可能だ。



check!

- F2.0と明るい3倍ズームレンズを搭載。本格的な5枚羽根も装備
- 液晶モニターは屋外でも明るく見やすい
- リモコンが標準添付

- ✕ マクロモードでは20cmまで近寄れるが、標準モードの最短撮影距離は80cmと遠い
- ✕ 機能設定のほとんどをメニュー内にまとめてしまったため、設定を変える際にちょっと面倒



背景との光量バランスも発色もドンピシャの出来。スローシンク(写真右)に設定すると、感度をアップして手ブレを防ぐ設定だが、ちょっとストロガが弱くなってしまった。

インターネットマガジン / 株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D



AEではちょっと露出アンダー目だが、背面の十字キーにより瞬時に露出補正が行えるのが魅力。適正露出で撮影すれば、コントラストが高い分、発色が鮮やかでパンチの効いた絵になる。



鮮烈な色再現と4cmまでのシームレスマクロ撮影が特徴

RDC-5000

230万画素
(原色フィルター)

38-86mm
F2.8-3.2

内蔵8MB
メモリー

スマートメディア
(別売)

メーカー名 : (株)リコー

価格 : 99,800円

URL : <http://www.ricoh.co.jp/dc/rdc5000/>



撮影/再生のモード切り替えは、アナログ感覚で操作できるダイヤル式。マクロモードの切り替えもなく、ワイド端なら4cmまで被写体に近寄ることができる。

電源スイッチに連動して、液晶モニターを保護するバリアーカバーが自動開閉する。リコーのデジカメは、すべて収納時には液晶モニターと撮影レンズが保護される仕様だ。



外觀写真から想像するよりも大きめなボディで、見かけよりも重量があるので、ポケットに入れて持ち歩くのはちょっと難しいかも…。

従来のラップトップ型デザインから一転して、高級コンパクトカメラを意識したデザインに一新。ただ、背面の液晶モニターを避けるため、レンズがグリップ部に寄っているのが残念だ。

リコーのデジカメでは初めてオーソドックスなコンパクトカメラデザインを採用。電源スイッチに連動してレンズバリアーや液晶保護カバーが自動開閉するなど、リコーならではのこだわりが感じられる。

原色フィルターCCDならではの、クリアで鮮烈な色再現で、少々コントラストは高めだが、うまく決まればインパクトの強い絵が撮れる。35mmフィルムと同じ3対2の縦横比なのも特徴だ。

ズームのワイド端では、レンズ前4cmまで被写体に近付くことができ、モードを切り替えずにシームレスにマクロ撮影ができるのも魅力。8Mバイトの内蔵メモリーを搭載しているが、スマートメディアも利用できる。

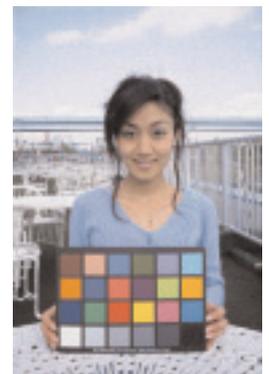
*画像は試作機で撮影



コントラストが高く、鮮烈な色再現が特徴だ。光学ズームは2.3倍と控えめなので、レンズ性能も十分。ただ、青空などベタの部分にノイズが目立ち、絵がちょっと粗く見える。



ワイド端では4cmまでモード切り替えなしに被写体に近寄ることができる。マクロに強いリコーのデジカメという伝統は、きちんと貫き通されている。



コントラストが高く非常に鮮烈な色再現だが、その分露出はシビアで、露出補正を効果的に使う必要がある。赤や青のチャートに乱れが見られるが、製品版では改善されている。



レンズとストロボの距離が離れているので、赤目は発生しにくいようだ。スローシンクロ撮影も可能だが、テスト撮影時に取扱説明書がなかったため、撮影で撮り漏らしてしまった。

Product Showcase

check!

- 電源スイッチに連動して、レンズバリアーや液晶保護カバーが自動開閉
- USB(ウィンドウズ98のみ)インターフェイスを搭載
- ズームのワイド端ではレンズ前4cmまで近寄れる
- × ボディーが大きめの割に、ズーム倍率が2.3倍と物足りない
- × 彩度の高い部分はノイズが目立ちやすい



画素数

レンズ
(35mmフィルム換算)

記録メディア(付属)

クリアで抜けの良い描写の名門Carl Zeissレンズを搭載

Cyber-shot DSC-F55K



Carl Zeissレンズを搭載しても、Cyber-shotの特徴である回転レンズは踏襲。CCDの1/2インチ化と211万画素化により、従来よりもかなりレンズ部の厚みが増えている。

光学ファインダーはないが、反射&バックライト兼用のハイブリッド液晶モニターで、屋外でもまったく液晶が見えなくなることはない。操作性はデジタルマピカ方式に準じている。

211万画素
(原色フィルター)37mm
F2.8/6.85メモリスティック
(4MB)

メーカー名 : ソニー(株)

価格 : 115,000円

URL : <http://www.sony.co.jp/sd/ProductsPark/Consumer/DSC/DSC-F55K/>

コンパクトなボディなので、片手でも楽々ホールディングできる。ブレを防ぐには、カメラを腰のあたりで液晶面を上にして構え、回転レンズを利用して撮影するのがベスト。

CCDの大型化やメモリスティック採用によるボディの厚みの増大を、デザインで巧みにカバー。初代Cyber-shotのフォルムを随所に残しつつも、新しい世代を感じさせるデザインだ。

物欲刺激系の斬新なフォルムと、世界の名門Carl Zeissレンズが魅力のソニーCyber-shot。単焦点の200万画素モデルとしては、もっとも価格が高いにもかかわらず、売り上げ上位にランキングされている。

光学ファインダーはないが、反射&バックライト透過型のハイブリッド液晶モニターを搭載しているので、晴天の屋外でも液晶モニターがハッキリ見える。再生時には最大5倍まで拡大再生したり、トリミングしたりもできる。

1カットあたり最大1分のMPEG1ムービーを撮影でき、本体にはスピーカーが内蔵されているので、音声付き動画として再生できる。ボイスメモにも活用可能だ。

光の色温度を敏感に反映する描写特性で、午後3時の少し黄色みがかった光を忠実に再現している。デジタルカメラが苦手な遠景ワイドも、水準以上の描写を見せている。



マクロ性能は並で、名刺をかるうじて画面いっぱい撮影できる程度。ただ、再生時にズームで5倍までクローズアップできるので、細かい文字もしっかりチェックできる。

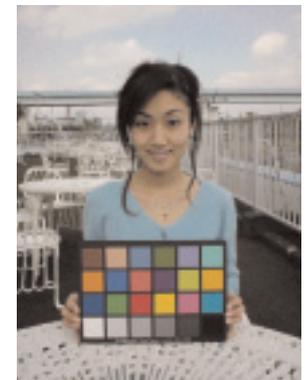
check!

- 回転レンズでローアングル、自分撮りも液晶モニターを見ながら可能
- 反射&バックライト透過型のハイブリッド液晶モニター搭載
- 最大10分40秒のMPEG1ムービーが撮影可能

- × シャッタースピードの下限が1/60秒なので、低照度でのノーストロポ撮影でノイズが立つ
- × 現時点では最大16Mバイトのメモリスティックしか発売されていない



2~3メートルの距離ではちょっと露出オーバー気味なので、フラッシュレベルを暗にするか(写真右)、マクロモードで撮影したほうが好結果が得られる。



液晶モニターでは適正露出に見えていたが、パソコンのモニターでは少し暗めの撮影結果になってしまった。ちょっとノイズが多めだが、原色CCDらしいクリアな色再現だ。



記憶色重視の華やかな色再現と非常になめらかな階調が持ち味

FinePix 2700

230万画素
(原色フィルター)

35mm
F3.2/8

スマートメディア
(別売)

メーカー名 : 富士写真フイルム(株)
価格 : 94,800円
URL : <http://www.fujifilm.co.jp/fx2700/>



基本的なフォルムは従来のFinePix700を踏襲しているが、新型バッテリー採用で、従来よりもわずかなが小型化。撮影モードに連動して自動開閉するレンズバリア - がうれしい。



ステータスを表示する液晶パネルや、ストロボ/マクロ切り替えボタンは、見やすくするために背面に移動。ボディ上部部は、シャッターボタンと電源スイッチだけになった。



モード切り替えダイヤルと十字キーは従来と同じだが、キャンセルボタンが新設され、メニュー構成も練り直されているので、操作性はかなり向上している。



手のひらサイズのコンパクトボディなので、片手でも楽々ホールディングできる。背広の内ポケットにも余裕で入る大きさだ。ストロボ発光部を指で塞がないようにしよう。

Product Showcase

昨年大ヒットしたFinePix 700の230万画素モデルで、スタイリッシュな縦型フォルムも健在。撮影モードにするとレンズ保護バリアが自動開閉するようになったので、レンズに埃や指紋が付着しにくくなった。

また、従来は測色的に忠実な色再現を目指していたのに対し、FinePix 2700は記憶色重視の華やかな色再現に味付けが変わり、その場の雰囲気を活かすインテリジェントオートホワイトバランスも搭載されたことで、不自然な色カブリも減少している。シャープネスはどちらかといえば低めだ。

他メーカーの最新鋭機と比べると、レスポンスはまだ遅めだが、FinePix 700よりは軽快になっている。

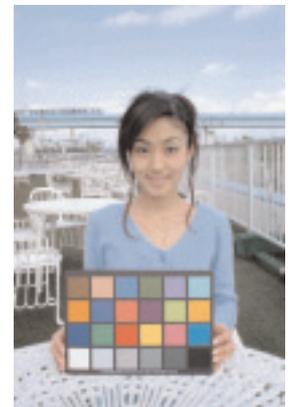
色や階調は文句なしにすばらしいが、細部の描写が急激に甘くなるというフジ独特の絵作りのため、決してレンズ解像力が低いわけではないのだが、全体に甘くブレたように見えるのは残念。



マクロ性能は標準的で、名刺を画面いっぱい撮影できる程度の能力はある。ただ、画面の縦横比が3:2と横長なので、レンズ周辺部では周辺光量の低下が見られる。

check!

- スタイリッシュなフォルムが魅力の縦型ボディ
- フィルムメーカーらしい色と階調にこだわった画質
- その場の雰囲気を活かすインテリジェントオートホワイトバランス
- × FinePix 700よりはレスポンスが向上しているが、他機種と比べるとまだ遅め
- × 液晶モニターが暗く、屋外ではほとんど見えない



階調レンジが広く、軟らかな階調とナチュラルな色再現が魅力。肌色も健康的に再現されている。プリンタードライバーを硬調に設定すれば、パンチの効いた絵に仕上げることも可能だ。

通常モードでは、比較的高速なシャッタースピードでストロボ撮影を行うので背景が暗く写ってしまうが、スローシンクロモード(写真右)で撮影すれば背景もよく描写される。



画素数

レンズ
(35mmフィルム換算)

記録メディア(付属)

カメラ内部で300万画素相当に拡大補間する独自のHyPict機能を搭載

カラリオ・フォト CP-800



電源を単3形ニッケル水素充電電池2本とすることで、これまでのカラリオ・フォトのなかでももっともスリムでコンパクトなボディを実現。手動開閉式ながらレンズバリアーが内蔵されているのもマル。

カメラ内で300万画素相当に補間拡大してからJPEG圧縮する独自のHyPictを搭載。圧縮による劣化とファイルサイズの増大を最小限に抑えられるのが特徴だ。

電源を単3形ニッケル水素充電電池2本にすることで、グリップ部の出っぱりをなくし、ボディは非常にスリムでコンパクト。また、液晶モニターの周りに7つの機能ボタンを設け、必要な機能にダイレクトにアクセスできるので、スピーディーに各種操作が行えるのも魅力だ。

USBインターフェイスを搭載しており、高精度モードで撮影した画像も約3秒でパソコンに転送可能。ウィンドウズ98だけでなくiMacや新G3にも対応している。

*画像は試作機で撮影

check!

- パソコン接続キットやアプリケーションが標準で付属
- ニッケル水素電池が4本、チャージャーも付属
- USBインターフェイスを搭載。ウィンドウズ98、iMac、新G3Macに対応
- 2段階の絞り優先AEを搭載。マニュアルで絞りとシャッターを設定可能

- × ニッケル水素充電電池2本のため、液晶モニター使用時のバッテリーの持ちはあまりよくない



グリップ部とレンズ部の厚みはほぼ同じで、ほとんど凸凹がないフラットなボディだ。撮影モードの切り替えはダイヤル式でわかりやすい。

液晶モニターの周りに7つの機能ボタンを配置し、ダイレクトに必要な機能呼び出せるのが特徴だ。液晶モニターには、ボタンに割り当てられた機能がガイド表示される。



試作機ではあるが、ほかの200万画素モデルと比較しても遜色ない写りを見せている。空の部分にわずかながらざわつきがあるが、うまく抑え込んでいるようだ。



マクロ性能は並で、名刺をかるうじて画面いっぱいに撮影できる程度。しかし、3/5/10秒の音声も記録できるので、音声付きのビジュアルメモとして活用できる。



F2.4と明るいレンズの効果で、背景もそれほど暗くならず撮影できる。スローシンクロ(写真右)では、ストロボの光量が控え目になるようだが雰囲気はよく出ている。

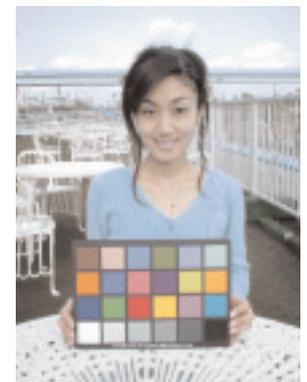
214万画素
(原色フィルター)38mm
F2.4/8CFカード
(8MB)

メーカー名 : セイコーエプソン(株)

価格 : 99,800円

URL : <http://www.i-love-epson.co.jp/products/category/camera/>

サンヨーのDSC-X110に比べれば半回りから一回り大きいものの、歴代カラリオ・フォトのなかではもっともコンパクトでスタイリッシュだ。すべり止めのラバーグリップも効果的。



ニコンのCOOLPIX950/700とよく似た画質ではあるが、発色のよいカラリオプリンターとの組み合わせを考慮したのか、ごくわずかに彩度を抑えている感じた。



コストパフォーマンスとバッテリー寿命に優れたリトルニコン

COOLPIX700

211万画素
(補色系フィルター)

35mm
F2.6

CFカード
(8MB)

メーカー名 : (株)ニコン
価格 : 87,000円
URL : http://www.nikon.co.jp/ei_j/



ズームモデルのCOOLPIX950ほどの硬派なイメージではないが、黒を基調としたボディやグリップ部の赤いアクセントは、ニコンファンの心を強くくすぐるデザインだ。



単3形アルカリ電池4本が電源なので、グリップ部の厚みはそれなりにある。また、レンズのまわりはコンバージョンレンズを装着するためのフィルター溝が設けられているためだ。



液晶モニターは1.8型TFTで、COOLPIX950よりもスペックダウンはしているが、バックライトが明るいののでむしろ視認性は700のほうが上だ。操作ボタンの位置が950と違うので多少戸惑うかも...



グリップが大きいので、収納性ではエプソンのCP-800に負けるものの、電池の持続時間やホールディング性ではCOOLPIX700のほうが上だ。

Product Showcase

COOLPIX950の弟分にあたる単焦点モデルで、絞り優先AEやシャッター優先AE、外部ストロボシンクロ機能は省かれているものの、211万画素CCDのポテンシャルを最大限に引き出した画質やウィックレスポンスはCOOLPIX950と同等だ。液晶モニターは1.8型TFTにスペックダウンしているが、バックライトがCOOLPIX950よりも明るく見やすいのが魅力。視野率も97%とCOOLPIX950と同じだ。

最短撮影距離は9cmで、マクロ性能は標準的だが、レンズ周りにはネジ溝が刻まれていて、専用ステップアップリングを介してCOOLPIX950用の各種コンバータを装着できる。いずれアクセサリメーカーからクローズアップレンズが発売されるだろう。

基本的な画質はCOOLPIX950とほぼ同等だが、レンズが単焦点ということもあって、COOLPIX700のほうが歪曲収差が少なく、画面周辺での直線の歪みがほとんどない。



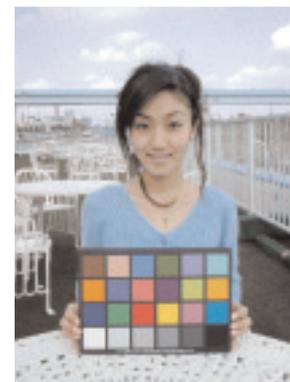
マクロ性能は標準的だが、レンズ周りにはフィルター装着用のネジ溝が切られているため、サードパーティーからクローズアップレンズが発売される可能性もある。

check!

- 上位機のCOOLPIX950と同等の画質とレスポンス
- ニッケル水素充電電池使用時には約2時間の連続撮影が可能
- レンズの歪曲収差が少なく、図面の複写にもOK
- ✗ 単焦点モデルとしては、レンズやグリップ部がやや厚め



COOLPIX950で撮影したものよりもCOOLPIX700のほうがなぜか発色がキレイだ。スローシンクロ(写真右)では、ストロボの光量がちょっと少なめで、こちらはCOOLPIX950のほうが適正だ。



レンズの歪曲収差を除けば、COOLPIX950もCOOLPIX700もまったく同じ画質と言っても過言ではない。補色タイプのCCDとしては、くすみがなく鮮やかな発色だ。



画素数

レンズ
(35mmフィルム換算)

記録メディア(付属)

クラス最速のレスポンスを実現。レンズバリアー内蔵のコンパクトボディも魅力

Allegretto M4



レンズが中央に配置された非常にカメラっぽいデザインが魅力。ボディカラーもシルバー、インディゴメタリック、フラッシュブルーの3色がラインアップされている。



モード切り替えはダイヤル式で、取扱説明書を見なくても迷わず操作できる。ステータスを表示する液晶パネルもELバックライトで照明されるのは便利でおしゃれだ。

十字キーによるメニュー操作は非常に洗練されていて、メニュー画面のデザインもなかなか凝っている。十字キーを押し続けるとOKというのわかりやすい。

214万画素
(原色フィルター)40mm
F3.2/8スマートメディア
(2MB)

メーカー名:(株)東芝

価格:89,800円

URL:http://www2.toshiba.co.jp/d_came/content.htm

富士写真フィルムのFinePix2700と共通のリチウムイオンバッテリーを採用することで、レンズと液晶モニターが重なる不利なレイアウトにもかかわらず、スタイリッシュなボディを実現している。

レンズがボディ中央にレイアウトされており、カメラとして非常に構えやすいのが特徴。アルミダイキャスト外装なので、質感もバッチリだ。電源は、専用リチウムイオンバッテリーで、FinePix 2700と共通だ。

起動レスポンスやメモリーカードへの記録が非常にスピーディーで、カタログのクラス最速は本物。モードダイヤルや十字キーによるメニュー操作は、直感的で非常に使いやすいのも魅力だ。

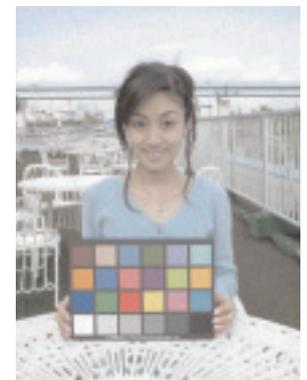
撮影状況に合わせてAFや露出エリアの設定が任意に行えるほか、プリセットホワイトバランスや4秒と8秒の長時間露出モードも備えている。USBも搭載していて、ウィンドウズ98およびiMac、新G3Macにも対応している。

・画像は試作機で撮影

細部描写力は200万画素機としては十分なレベル。ただ、ほかの機種に比べると彩度が低めでスミっぽい色再現だ(試作機による撮影)。



マクロ撮影能力は標準的。かろうじて名刺を画面いっぱい撮影できる能力を持つ。よく見ると潜在的なノイズが感じられるが、うまくデジタル処理で抑え込んでいるようだ。



試作機ということでチューニングが完全でないのかもしれないが、彩度が低めのうえ、グレーバランスも若干ずれているようだ。シャープネスは十分にあり、整った描写だ。

check!

- 電源スイッチに連動して自動開閉するレンズバリアー内蔵
- 起動レスポンスやメモリーカードへの記録はクラス最速
- 撮影モードのまま、最後に撮影したカットを再生して削除可能
- USBインターフェイスを搭載。ウィンドウズ98、iMac、新G3Macに対応

- × 試作機で撮影した画像を見ると、彩度が低く、鮮やかさがいまひとつ



ストロボ撮影ではちょっと青みが目立つようだが、光量レベルは適正。スローシンクロ(写真右)はちょっと露出アンダーの傾向はあるが、バランスは取れている。



200万画素デジタルカメラ機能一覧表

製品名	COOLPIX950	C-2000ZOOM	RDC-5000	Cyber-Shot DSC-F55K	FinePix2700	カラリオ・フォト CP-900
メーカー	(株)ニコン	オリンパス光学工業(株)	(株)リコー	ソニー(株)	富士写真フイルム(株)	セイコーエプソン(株)
問い合わせ先	03-3216-1010	0426-42-7499	0120-000-475	0564-62-4979	03-3406-2981	042-585-8444
標準価格	125,000円	113,000円	99,800円	115,000円	94,800円	99,800円
実勢価格	99,800円	89,800円	79,800円	89,800円	79,800円	-
撮像素子	CCDサイズ 画素数	1/2インチ 211万	1/2インチ 211万	1/2インチ 230万	1/2インチ 230万	1/2インチ 214万
画像フォーマット(ファイル形式)	JPEG準拠/非圧縮 (TIFF-RGB)	JPEG、非圧縮(TIFF)	JPEG(Exif2.1)	JPEG/MPEG1 (最大60秒)	JPEG(Exif2.1)	JPEG(Exif2.1)
記憶メディア	種類 標準添付品容量	コンパクト フラッシュ(CF)カード 8M	スマートメディア 8M	内蔵メモリ(8M) スマートメディア 4M	スマートメディア -	コンパクト フラッシュ(CF)カード 8M
撮影コマ数	最高画質モード(JPEG非圧縮)	1枚(HIモード)	1枚	-	-	-
(標準添付品使用時)	高画質モード	約8枚(FINEモード)	7枚(圧縮) /15枚以上	約9枚(1792×1200) /約29枚(896×600)	5~8枚/27~38枚	4枚/23枚(FINEモード: 4MB使用時)
(1600×1200ピクセル/ 640×480ピクセル)	標準モード	約16枚 (NORMALモード)	77枚以上(1024×768) /122枚(640×480)	約19枚/約55枚	10~15枚 /47~63枚	8枚/44枚(NORMAL モード:4MB使用時)
レンズ	エコノミーモード 焦点距離(35mm判換算時相当) 絞り値	約32枚(BASICモード) 38~115mm F2.6~4	- 35~105mm F2.0~2.8/6.5~19.5	約38枚/約99枚 38~86mm F2.8~3.2	- 37mm F3.2/8自動	17枚/70枚(BASICモード:4MB使用時) 35mm F2.4/8
フォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス
シャッタースピード	8~1/750秒	1/2~1/800秒	1~1/500秒	1/6~1/750	1/4~1/1000秒	1/2~1/750
露出制御	プログラムオート露出、 露出補正(±2EV、 1/3EVステップ)	プログラム自動露出、 露出補正(±2EV、 1/3EVステップ)	プログラム自動露出、 露出補正(±2.0EV、 0.5EVステップ)	露出補正(±1.5EV)	プログラム自動露出、 露出補正可	プログラム自動露出、 露出補正(±2.0EV、 0.2EVステップ)
ホワイトバランス	1 絞り優先、シャッター優先モードもあり	オート、マニュアル、 プリセット	オート、マニュアル (曇天、曇天、白熱灯、 蛍光灯)	オート、マニュアル (屋外、曇天、白熱灯、 蛍光灯)	オート、マニュアル (6モード)	オート、固定(太陽光)、 マニュアル
感度	ISO約80相当、 ISO100/160/320 (感度切り換え可)	約ISO100、 2倍感度(約200)、 4倍感度(約400)	ISO100相当	ISO100相当	ISO120相当	ISO100相当、 ISO200/400(高感度 モードあり)
光学ファインダーの有無				x		
ストロボの有無						
液晶モニター	2インチ低温 ポリシリコンTFT	1.8インチ低温 ポリシリコンTFT	1.8インチTFT	2インチTFT	2インチ低温 ポリシリコンTFT	1.8インチ低温 ポリシリコンTFT
セルフタイマー	3秒、10秒	約12秒	約10秒	約10秒	約10秒	約10秒
電源	種類 本数	単3形電池(アルカリ、 ニッカド、ニッケル水素、 リチウム)、ACアダプター 4本	単3形電池(アルカリ、 ニッカド、ニッケル水素、 リチウム)、ACアダプター 4本	充電式インフォ リチウムバッテリー 1本	充電式リチウム イオンバッテリー、 ACアダプター 1本	単3形ニッケル 水素電池 2本
パソコンへの接続方法	シリアルケーブル、 PCカードアダプター	シリアルケーブル、 PCカードアダプター、 FDアダプター	シリアルケーブル、 USBケーブル、 PCカードアダプター、 FDアダプター	シリアルケーブル、 PCカードアダプター、 PCカード/パラレル ポートアダプター	シリアルケーブル、 イメージメモリーカードリーダー、 PCカードアダプター、 FDアダプター	シリアルケーブル、 USBケーブル
シリアル接続キット価格	9,800円	12,000円	9,800円	9,800円	9,500円	3,000円
PCカードアダプター価格	2,500円	10,000円	10,000円	8,800円	10,000円	-
FDアダプター価格	-	12,000円	12,000円	-	12,000円	-
ACアダプター価格	5,400円	4,500円	4,500円(100V専用3,500円)	-	-	3,500円
専用充電電池価格	-	2,480円 (ニッケル水素4本)	-	7,500円	5,000円	2,000円 (ニッケル水素4本)
専用充電電池チャージャー価格	-	7,500円(ニッケル水素 電池4本付属)	-	付属	6,800円	6,500円(ニッケル水素 電池4本付属)
付属画像編集ソフトの有無	x	x	x	x	x	x
付属品	CFカード、ソフトケース、 ストラップ、 ビデオケーブル、 レンズキャップ、 単3形アルカリ乾電池4本	カメラケース、 ストラップ、 スマートメディア、 リモコン、 ビデオケーブル、 単3形アルカリ乾電池4本	単3形アルカリ乾電池4本、 ソフトケース、 レンズフード、 ハンドストラップ、 ビデオケーブル	メモリースティック、 充電式インフォリチウム バッテリー、ACアダプター、 充電電池チャージャー、 AV出力ケーブル、ハンド ストラップ、レンズキャップ	充電式リチウム イオンバッテリー、 ACアダプター、 ハンドストラップ、 専用ビデオケーブル	USB接続ケーブル、 CFカード、充電器、 充電式ニッケル水素 電池4本、 カメラポーチ、 ストラップバンド
サイズ(W×H×D)(mm)	143×76.5×36.5	107.5×73.8×66.4	131.1×68.8×39.3	103×79.1×48	80×97.6×33	113×67.5×35.5
重量(本体のみ)	350g	305g	315g	約250g	約230g	235g

Product Showcase

CD-ROMに収録したサンプル画像の見方



今回の記事で取り上げた200万画素クラス8機種に加え、現在売れ筋のデジタルカメラ6機種による実写サンプルをCD-ROMに収録してある。各機種で6つのシーンを撮り比べており、誌面に掲載しているのはその4つだ。各機種とも無圧縮を除く最高画質モードに設定し、特に断り書きがないものはフルオートで撮影している。なお、実写サンプルを見るには、CD-ROM【A】内「INDEX.HTM」をWWWブラウザで開き、「What's New?」の「1」をクリックすればいい。

●マクロ性能のFinePix2700とFinePix700の画像は、Paint Shop Pro Ver.4.20Jで180°回転して、JFIF準拠のJPEG形式(ハフマンエンコーディング方式で圧縮)で保存したものを。

① ポートレートとカラーチャート

主として肌色再現を見るためのカット。撮影時刻は午後3時とやや遅めの時刻だが、太陽が雲に隠れてしまっているため、色温的にはむしろ曇りに近い状態での撮影だ。撮影時には液晶モニターで露出の確認を行い、露出不足が感じられる機種は露出補正を行ったカットも撮影している。誌面に掲載しているのは、露出補正を行ったカットだ。

② 清涼飲料水の缶とカラーチャート

これも主として色再現をチェックするためのサンプルで、すべてオートホワイトバランス任せで撮影して

いる。清涼飲料水やカラーチャートの色が好ましい色に再現されているかをチェックしよう。特に、ポカリスエットの青やCCレモンの黄色は不自然な色になりやすい。また、缶に書かれている文字で細部描写力もチェックできる。ぬいぐるみのほったの部分でハイライトの階調再現もわかる。

③ 画角

レンズの画角(写る範囲)をチェックするためのサンプルだ。ズームモデルに関しては広角端と望遠端で撮影している。また、遠景の描写性能を見るのにもちょうどよいカットだ。



COOLPIX700	Allegretto M4
(株)ニコン	(株)東芝
03-3216-1010	03-3457-8404
87,000円	89,800円
69,800円	-
1/2インチ	1/2インチ
211万	214万
JPEG標準/非圧縮 (TIFF-RGB)	JPEG (Exif2.1)
コンパクトフラッシュ(CF)カード	スマートメディア
8M	2M
1枚(HIモード)	-
約8枚(FINEモード)	33枚(32MB使用時)
約16枚(NORMALモード)	66枚(32MB使用時)
約32枚(BASICモード)	132枚(32MB使用時)
35mm	40mm
F2.6	F3.2/8(自動切り換え)
オートフォーカス	オートフォーカス
8~1/750秒	1/4~1/1000
プログラム自動露出、露出補正(±2EV、1/3EVステップ)	プログラム自動露出
オート、マニュアル、プリセット	オート、マニュアル(4モード)
ISO約80相当、ISO100/160/320(感度切り換え可)	ISO100相当
1.8インチTFT	1.8インチTFT
3秒、10秒	2秒、10秒
単3形電池(アルカリ、ニッカド、ニッケル水素、リチウム)、ACアダプター	充電式リチウムイオン、ACアダプター
4本	1本
シリアルケーブル、PCカードアダプター	シリアルケーブル、USBケーブル、PCカードアダプター、FDアダプター
9,800円	7,000円
2,500円	-
5,400円	12,000円
-	5,000円
-	6,800円
x	-
CFカード、ソフトケース、ストラップ、ビデオケーブル、レンズキャップ、単3形アルカリ乾電池4本	充電式リチウムイオンバッテリー、ACアダプター、ハンドストラップ、専用ビデオケーブル、スマートメディア
114 x 67 x 38.5	112 x 68 x 42
270g	約240g

画素数以外の機能に注目 ~ 動画が撮れるデジカメも増殖中 ~

デジタルカメラは急速に高画質化の道歩んでいるが、デジタルカメラの進化は高画質化だけではない。サンヨーDSC-X100(現在はX110)のように画素数は85万画素と少なくとも、動画が撮れるデジカメとして人気の製品もある。

また、シャープのインターネットビューカムも、最大2時間ものMPEG4ムービーが撮れるデジカメとして注目を集めている。MPEG4ムービーは圧縮率が高く、ファイルサイズが小さいので、インターネットでの配信に適しているからだ。ちなみに、

ソニーのデジタルマビカや211万画素のCyber-shotもMPEG1ムービーが撮影できる。

一方、デジタルビデオカメラ(DV)からのアプローチもある。ソニースタミナハンディカムTRV10やビクターGR-DVX7のように、DV静止画をメモリーカードに保存できる機種も増え始めている。DV静止画は35万画素クラスの画質しか得られないが、ビデオカメラは10倍以上の高倍率ズームを備えているため、超望遠などズームを活かした撮影ができるのが魅力だ。



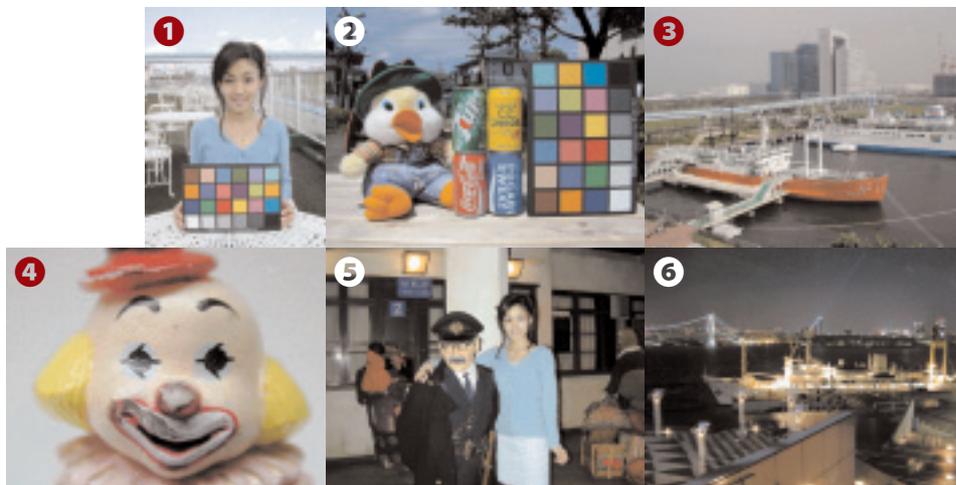
DSC-X110

メーカー名 : 三洋電機(株)
 価格 : 68,000円
 URL : <http://www.sanyo.co.jp/AV/DSC/index2.html>



インターネットビューカム

メーカー名 : シャープ(株)
 価格 : 60,000円
 URL : <http://www.sharp.co.jp/sc/eihon/vnez1/text/>



④ マクロ性能

各機種のマクロ性能をチェックするためのカットだ。照明は三波長形昼光色の蛍光灯(日立あかりん棒)で、最大撮影倍率となる位置で撮影。オートホワイトバランスで色カブリが生じる場合は、ホワイトバランスを蛍光灯モードに設定して撮影している。ピエロの人形はちょうど名刺の高さと同じで、ピエロの全身が画面いっぱい写っていれば、名刺を画面いっぱいに撮影できる能力を持つ。

⑤ ストロガ撮影

ストロガ撮影における描写を見るためのカット。ス

ローシンクロ撮影が可能な機種は、スローシンクロモードでも撮影している。電灯光照明の赤い雰囲気がかつだけ残っているか、背景がかつだけ明るく写っているか、などをチェックしよう。

⑥ 夜景撮影

三脚を使ってどこまで夜景を撮影できるかをチェックするカット。夜景モードを持つ機種に関しては、通常モードと合わせて撮影している。低照度でのAF能力、高輝度の光源の描写、ノイズ、オートホワイトバランスの特性などをチェックしよう。

実写サンプル撮影協力 船の科学館

東京都品川区東八潮3番1号
 開館時間 : 10:00AM ~ 5:00PM
 (土日祝、夏期 6:00PM)

URL <http://www.funenokagakukan.or.jp/>





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp